

私たちの目指す保育・環境

- ① 保育について
- ② 施設について
- ③ 園庭について



① 保育について

私たちは、幼保連携型認定こども園教育保育要領をもとに、幼児教育・保育をしていきます

幼保連携型認定こども園	幼保連携型認定こども園教育保育要領
保育園	保育所保育指針
幼稚園	幼稚園教育要領

上記の三つの要領・指針は、記載されている事が多少違いますが、核となる保育については共通です。

新しい園は「幼保連携型認定こども園」ですが、目指す子どもの育ちについて、現在の3園と変わることはありません。



① 保育について

- これからの時代を生きる子どもたちは、下のア～ウの3つの観点を基本として、保育・教育が行われていきます。
- これは、高校教育の学習指導要領までを縦に貫いた3本の柱です。幼児期の保育・教育は、学校教育の学びの基礎となります。
- 学校教育で目指している「主体的・対話的で深い学び」につながる体験が、子どもたちの生活の中にあります。

ア. 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

イ. 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

ウ. 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

① 保育について

- ア. 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- イ. 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ウ. 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

五感をいっぱい使う
感性が高まる
気づく、わかる

考える
やってみる
表現する

毎日が楽しい
もっとやりたい
友だちが好き・先生が好き

自分を発揮できる肯定的な雰囲気の中、子どもたちがかけがえのない「今」を充実して幸せに過ごすとともに、主体的に人生を歩む基礎を育むように、一人ひとりに合わせた丁寧な保育をしていきたいと考えています。

②施設について

施設の形

- ア. 旧赤羽根町3園の統合と民営化であることから、旧赤羽根町全体の幼児教育施設となること
- イ. 新しく分譲される地域に建てられる園ということから、この区画の街づくりにつながること
-そのような視点から施設のあり方を考えてきました

- **すべての子がすぐに広場（園庭）に出られる、園庭を囲んだ平屋の園舎**
- **木の温もりを感じる国産材の木造建築**
- **街のシンボルとして存在する表裏がない造り**
- **子どもの雰囲気を感じながら散歩できる気持ち良い園の周囲**



②施設について

施設の形



- 1人で遊ぶ、友達と遊ぶ、みんなで遊ぶ、広い空間、狭い空間、静かな空間、子どもたちの気持ちや活動内容に合わせて使える多様性のある施設
- 遊び、食事、昼寝、と、生活の流れもスムーズになります

「コーナー保育」

遊びごとにコーナーをつくり、子どもたちは自分の好きな遊びを楽しむ保育。自分で選んだ遊びを楽しみます。

一人ひとりの子どもが主体的に遊び込める環境をつくりたいと思っています。



②施設について

特別な部屋

保育室の他に、特別な部屋、空間を設けます。

毎日の生活の中で、子どもたちの興味・関心からの活動がよりやりやすく、より深まるために設けられた機能別の場所です。

子どもの可能性を限定せず、一人ひとりの良さを引き出せる施設にしていきたいと考えています。



1.アトリエ





様々な体験がいつでもできます。

	庭を眺めて落ち着く場。
	調理を体感する場。
	みんなで大きなアートを作る場。
	様々な役割を演じる場。
	モノ積み上げて、様々な形を作る場。
	好きな映像や写真を見せ合う場。
	自然を学ぶ場。
	身体を動かす場。
	ものづくりを体感する場。

2.地域の部屋



地域の子育てと交流を支援します。

	登下校時の父母のコミュニケーションの場。
	地域の子育てを手助けする場。

③ 園庭について

五感をいっぱい使って感性を豊かに

人間は、「五感」という5つのセンサーを使って自分の外の世界を感じ、脳で計算し、反応する、この繰り返しを行なっています。その繰り返しの中で、意識が生まれ、感覚が養われ、考えが生まれていきます。

人間にとって楽で快適な状態が常である現代では、心身にストレスの少ない環境で視覚・聴覚の情報に偏って過ごしています。そんな時代でも五感を十分に感じさせてくれるのが「自然」です。

自然の中で多くのことを感じ、気づき、発見し、驚き、感動する、そして豊かな感性が育まれていきます。子ども達にはたくさんそんな経験をしてほしいと願っています。



③ 園庭について

園庭に自然があることの意味

赤羽根には豊かな自然があります。自然に触れさせたいと思ったら、お休みの日に連れて行ってあげればいいのかもかもしれません。お散歩や園外保育に出かけることも考えられます。

でも、私たちは園庭に自然があることがとても大事だと考えています。**子どもの「園生活」という日常に自然が必要なのです。**

自然は「自然の状態×気候×天候」で無数の表情を表します。さらに自分の心の在り方でも感じ方が変わります。

子ども達は自然のある日常の中で多くのことを感じ、考え、知り、工夫します。もっとやってみようという姿勢も育まれます。このプロセスの中に、幼児期の学びがたくさんつまっているのです。



③ 園庭について

起伏のある園庭で豊かな育ちを

高低差はいろいろな場所を生み出します。いろいろな視点で景色が見えます。体が自然に動いたり、すんなり登れなかったりします。そんな場所で遊んでいるうちに、身体をコントロールすることを覚えていきます。



③ 園庭について

起伏のある園庭で豊かな育ちを

運動コントロール能力は神経系が急速に発達する乳幼児期から児童期にかけて発達し、運動体力は児童期後期から青年期にかけて発達します。発達の時期から考えると、運動コントロール能力が発達する乳幼児期は、いろいろな体の動きを経験していくことが大切であるといえます。



そしてなにより、起伏のある園庭はとっても楽しいです。楽しいと感じるからこそ繰り返し、工夫し、挑戦するのです。